

絆きずなの行事

小正月のサギチヨウ



南津田のサギチヨウ

新型コロナウイルスの影響により、全国各地の祭礼や伝統芸能は規模縮小や中止を余儀なくされています。収束の目途がなかなかつかず、再開の判断もつきにくい状況が続いています。今回は、そのような中で新春に向け、本市で特に盛んな春祭りへの思いを馳せていただくため、『近江八幡の歴史』第3巻「祈りと祭り」から、小正月におこなわれるサギチヨウ行事をいくつかご紹介いたします。

国選択無形民俗文化財「近江八幡の火祭り」のなかで、「小正月のサギチヨウ」は、市内の各地で行われる行事です。その起こりは平安時代の宮中行事に求められるとされ、「三稗杖」などと記述されます。これは、木製の稗ち杖型の杖で打ち合う

正月の遊戯のことで、このとき破損した稗ち杖や杖を陰陽師わんやうじらが集めて焼いたことが、起源とされてきました。しかし、小正月の火焚き行事「どんど焼き」の焚き物の形が三脚でサギチヨウと呼ばれたり、「三木長」と書かれたりしたことから、この小正月の火焚き行事に、呪術性がある棒や杖状のものを燃やす行為が附けられたのではと考えられています。

現在は、小正月の行事として1月15日に近い土・日曜日に行われる地域が大半です。神社の境内に大きなサギチヨウが作られ、各家から持ち寄られた注連縄しめなわなどと一緒にもしくは翌日の早朝に奉火します。かつては、竹を細かく裂いたものにサギチヨウの残り火を灯して持

ち帰り、かまどの火種として、小豆粥あずまかゆや白粥しろかゆを炊きました。その粥を神棚や仏壇に供え、自分も食べてお祝いすると一年間無病息災で過ごせるともいわれました。

一方、サギチヨウを山車にして、町内を練り歩く地域も多くあります。そのうち南津田町は、町内に「十丁町（じゅつちようちよう）」というサギチヨウのための10の組があり、その組が一年ごとに順番でサギチヨウを作ります。当日は当番組が組内の集落を午前中練り歩いた後、宿で昼食をとり、午後から他の9組の各宿を練り歩きながら回ります。各宿は高張り提灯を立て、当番組が「おめでと〜ございます」とあいさつすると、酒さけや肴さかなを持って出てきて振る舞い

ます。サギチヨウは、八王子神社で午後6時から奉火されます。沖島のサギチヨウ行事は、地元では「サンチヨウ」や「サンチヨ」と呼ばれ、小正月の行事だけでなく、成人の儀式も含まれます。沖島のサギチヨウ行事は青年団が主体となっており、れ、「ゲンブク」と呼ばれる新たに青年団に加わる若者が先輩から与えられる試練を乗り越え、サンチヨウに火を点けなければなりません。

このように、サギチヨウ行事は地域の神事であると同時に、人びとの絆を確認する行事ともいえるでしょう。



沖島のサギチヨウ

人口と世帯 令和2年11月1日現在 ()は前月比

総数	82,262人	(+39)
男	40,411人	(+1)
女	41,851人	(+38)
世帯	34,426世帯	(+39)

※外国人住民(42カ国・地域/1,495人)を含みます。

❗ 新型コロナウイルス関連の情報は、市ホームページをご覧ください

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本紙掲載の催しが急に中止や延期になる場合があります。開催の可否は事前に担当課または主催者へご確認ください。また、最新情報は、市のホームページ <https://www.city.omihachiman.lg.jp/> で随時発信しておりますので、ご確認をお願いします。